

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第78号 (2022. 8. 14-2022. 8. 21)

- ◆ 参加者 太代祐一、宮坂菱哲、似鳥、菊池洋勝、西脇祥貴、小庵、しまね、みん、hajime、達郎古、月硝子、白水ま衣、藤井卓、Suzyn、みや、コネコノピッチ、唾、風池陽一、水の眠り、輪井ゆう、天やん、Millieent、AlmondKikate、海馬、玖、ヤマダリツコ、式定住佳、おかもとかも、抹茶金魚、雲上晴也、たなかゆみ、雷(らい)、まつりぺきん、あ、汐田大輝、石原とつき、星野響、なゆた、ちゅんすけ、小沢史、涼蘭、鴨川ねぎ、日下昊、翠川蚊、日月星香、桔梗筆、旦悠輔、和泉明月子、東ころ、生・存、岡村知昭、森川のと、蔭一郎、haruwō、hyutoppa、tau、せば、向坂澤、電車侍、crazy lover、思雨、HAKUBIKI、Ryu sen、夜想詩人、池田吉輝、不可思議世界、高良俊礼、岩瀬百、愁愁、涼、Smugglin、西沢葉火、高瀬二音、石川聡、さぶさち、風花(かざはな)、徳道かつみ、棚場田敦也、岡佳子、ろりずむ、上峰子、茶熊さそこ、以太、かなず(梨山)、碧、さとすい、ゆりのはなこ、檜崎進弘、蓮華、木野清瀬、森内詩紋、恋を知ったきみに詠む、名犬ぼち、詩月波与生(九一名)

◆ 7・7詩、5・7・5詩

走馬灯どの瞬間もきみがいる 似鳥
ピストルを丁寧に咀嚼して返す 藤井卓
ぼくは犬派と決めておく砂時計 海馬
ラジオネーム「玉音放送聞きました」さん 海馬
四人に一人経験す初茄子 菊池洋勝
自分から切らない電話のような雨 Ryu sen
お爺ちゃんが大人の階段を下りてきちゃった たろりずむ
勝つか負けるかの問題じゃないペヤングだ 白水ま衣
ペヤングを食べて擬音語になる 白水ま衣

掌返して since S20 まつりへきん
軸足に蟬がとまつてから独り ちゆんすけ
三つとも冬瓜なんて選べない しまねこくん
蓑虫の蓑に通したカテーテル しまねこくん
あれはダ・カーポですかいいえ蟬です 海馬
遺書を書くすべてを灰にせよと書く かづみ
コンタクトレンズをつけるときの湖(うみ) 太代祐一
長兄のサブタイトルが決まらない Ryū sen
絶世の叔母で人食い鮫である 岡村知昭
釜めしの蓋のぶぶんは反面教師 海馬
祖父を出た水が過去から降ってくる 西脇祥貴
壊疽ですが塗れば話芸と言えますか 西脇祥貴
秋風に揺れてカラカラ鳴る奥歯 鴨川ねぎ
逆さまにするとバナナになる祝辞 白水ま衣
ユカタン半島のこだわり置いとくね 太代祐一
おてもとに気をつけなさい偷むから 太代祐一
人間の囀りは、だつてさ、耳の奥 海馬
わたくしのプリンを崩す地動説 ちゆんすけ
往復に一時間かけ流れ星 しまねこくん
ハンサムの頭上に雲が集まつて 太代祐一
遡上するまるでまるでまるで おかもとかも
サイレント映画に猫たちの食事 コネコノビッチ
要約をすれば全ては茄子である 白水ま衣
ありがどうつて言われてジャングルジムになる 白水ま衣
廃校のプールで釣れる魚かな 菊池洋勝
秋鱈が命乞いするペイルート あ
属性を断てば銀杏がさらさらと 高良俊礼
秋みようがによこによこふえてゆく空き家 石川聡
秋陰やいつしか傷もかゆくなり 小沢史
嘘をつけ俺たちみんなヒト科だろ 達毘古
ちちははの気配ないまま魂送り 達毘古

夏の果ジグザグにスターダスト誰 たかこ
御山洗記紀が隠したあれやこれ 月硝子
噴火待て待てよと御山洗かな syusyū
生まれ変わったらサクレの「サク」になる 唾
滝しぶき滝に滝ある瀑布かな 風池陽一
渚ゆう子の歌を聞きたい夜 水の眠り
遺跡にはなれない家のうずたかい 輪井ゆう
秋風や錯乱した人間の後遺症 天やん
忍び音や姿を隠す秋の蟬 玖
年の功恋心には役立たず 弑定住佳
便器から出てきたような未来感 抹茶金魚
秋暑し掛かり付け医はまだ休み 雲上晴也
詩を書き直してひとり整う 雷
クーデター起こす相談銀河濃し 汐田大輝
ぼっかりと宇宙の果てに水蜜桃 星野響
残り香の紅消えて射す朝陽 涼閑
しやがみ込んで恥じらいつつ爪紅 日下昊
漏洩をこまかす無限旋律 翠川蚊
炎天の下は出ないと決めた日々 日月星香
晩夏でも汗つたう勤務の最中 黎明
こは素数割り切れない思い 日夜輪
憧れた月をさわればただの石 東ころろ
草風もジェンダー論を語つて 生・存
秋鱒を抱きフラッシュを浴びている 蔭一郎
ゆく先に降るかなしさは秋の蝶 haruwo
秋茗荷老ひとは匂ふことであり hyuntoppa
この夏も去り、行く fuw
秋の夜や風呂上がりには目の覚めてせば
小雨の夜網戸の蛾二つ睦まじき 向坂濤
酔芙蓉 歯医者に向かう 道すがら 電車侍

夢にさえ 気配も見せず 盆なれど 思雨

ひとしきり泣いた鬼の子 黙る朝 不可思議世界

白壁に立て掛けられた轡虫 岩瀬百

つかまえた紡錘形の郵便夫 愁愁

大雨で夜の道路が川のように 涼

咳をしてもしなくてもひとり Snuffkin

しみじみと生八ツ橋を振り返る 西沢葉火

ガラス窓突き抜け雷に私撃たれるかも 高瀬二音

懐かしいきみの手のひら秋茗荷 風花

僕はただあつけらかんとしていたい 棚場田敦也

ヘルメット射る残暑かな工事中 岡 佳子

懐に入つてわかる一途 茶熊さえこ

去勢後は種の保存に役立つ人 以太

皆殺し歴史としても青嵐 かなず

蓑虫のままでああなたは海になる さとすい

夏の終わりみたいな花火が上がる ゆりのはなこ

ゆふがほのほつほつ咲くやうな悪夢 上峰子

前戯もないままで桃缶を開ける 月波与生

◆ 7・7、5・7・5以外の短詩

あなたにはあなたの正しさわたしにはわたしの正しさ正の
字数える さぶさち

「偶数と奇数、どちらが多いの?」……「もう電話しない
でね」 石原とつき

怪しげな目覚まし時計ふっかつのじゅもん唱える月曜の朝
宮坂変哲

指を指し 人を嘲笑う人達は よほど自分に自信あるのね
休庵

月光の翳りはうすく夜のなか愛しいひとを連れて囁く
み

私には言葉があると心から生まれを喜ぶ歌を読みつつ

MI1

腕の怪我の包帯をひとりで巻けるようになった夜 ヤマダ

リツコ

ガラガラと何かが崩れ落ちる音彼と築いた愛の塔 たなか

ゆみ

温かな言葉を探して本開く愛から遠い私の為に 和泉明月

子

空っぽの胸がどうにも痛いから遠いあなたの前に立つてる

森川のと

初盆の礼義礼節慣わしと気持ちいたいせつおかえりなさい

crazy lover

朝ぼらけ夢の続きに星が散る夜明けを日暮れと見紛う惑星

夜想詩人

明けないで朝が来るのが怖いからやさしい夜よ 寄り添

っていて なゆた

いくつものマトリョーシカを取り出して最終的に宇宙を掴

む 蔭一郎

◆ 詩

『ダメなやつ どこに行っても ダメなやつ』

おかわり

『結局 どこに行っても ダメなやつ』

ボクボク

そんなことばかりなので、こんな仕上がりです (HAKUBIKI)

近所に住む優しいおじさんが、

沿道にヒマワリを咲かせていた…

通学路

ひまわり植えて

笑顔咲け (池田吉輝)

◆作品評から

孤独死の現場はドンキみたいだね ゆりのはなこ

〜掃除が出来てない雑然とした部屋のイメージが「ドンキ」が連想させたのだろうか。子どものつぶやきのような語り口も怖い。(月波与生)

壊疽ですが塗れば話芸と言えますか 西脇祥貴

〜ん〜 肉体芸かなあ。榎本健一的に車椅子でバクテンとか。(檀崎進弘)

嘘をつけ俺たちみんなヒト科だろ 達毘古

〜よきよきよき〜はい、私もヒト科異種族です(蓮華)

秋風や錯乱した人間の後遺症 天やん

〜錯乱が後遺症、いや錯乱のさらに先に後遺症があるのですか。えぐいですね(向坂漣)

風鈴や嘘が上手くて風の神 木野清瀬

蛇苺詩人のくせに下手な嘘 馬勝

〜嘘が上手な人(神)と下手な人。上手に嘘を付いたと思ってもたいがいバレている。気づかないフリをしている人が一番嘘が上手い人。(月波与生)

秋陰やいつしか傷もかゆくなくなり 小沢史

〜治りかけはつつい掻いてしまつて痕を残してしまつもの。年をとるとなかなか消えませんが、もつと年をとると

どれがどの傷だったのかきつと記憶も曖昧に。どうしてあんなに泣いたのでしょう。もう秋がやって来ます。くれぐれも掻きむしらずに待ちましょう（木野清瀬）

東京はまだ翼竜であるらしい 西脇祥貴

く「らしい」が句の力を弱くしている。ここは言い切った方がいいところ。（埼玉はすっかり北京原人だ）というように。（月波与生）

腕まくら明日スープになる冬瓜 高田月光

くまくら↓冬瓜の連想と、明日消える冬瓜↓腕まくらをしてくれる人、との連想が対になっている。冬瓜は老廃物（過去）排出を促す作用があるのでよくよすることもない。（月波与生）

いくつものマトリョーシカを取り出して最終的に宇宙を掴む 蔭一郎

く内の内の内の内……その最奥にある果てない宇宙。その手にそれを掴む時に、作中主体の内奥の深いところまで手が掴み出されるのかもしれない。（森内詩紋）

あの夏の入道雲は骨の色 まつりぺきん

く骨の色は「白骨」というように白を連想するが骨上げで見るときは必ずしも想像したような白ではない。伝えきれない白を言葉にするとき「入道雲」は相手に響く言葉になるだろう。（月波与生）

ちちははの気配ないまま魂送り 達毘古

くごめんなさい、笑っちゃいけないのだろうけど、笑ってしまいました。ちょうど私も、亡くなった家族の気配ないなあ、ちゃんと帰って来てるのかなあって思ってたので

(恋を知ったきみに詠む詩)

広告は個人の感想ですオクラ しまねこくん

↳最後に「オクラ」と言い放つが句のどこにもオクラのことは書いてない。〈星形〉とか〈ネバネバー〉〈夏バテ対策〉とかオクラの持つイメージはすべて個人の感想なのである。(月波与生)

蓑虫の蓑に通したカテーテル しまねこくん

↳父さんしっかりして。(名犬ぼち)

ラジオネーム「玉音放送聞きました」さん 海馬

↳*SIGH*……。(西脇祥貴)

半音を上げると鯨は夜になる 白水ま衣

↳「半音・鯨・夜」でバランスのいい句になっています。

この中のどれかを逸脱させると、もっと面白い句かつまらない句になっていきます。お試しあれ。(月波与生)